

特集

支えあいのまち

私たちが住んでいるこの中野市。

平成27年10月1日現在で4万3950人が住むこのまちには、同じく4万3950の個性を持つ人がいて、日々さまざまなことで活躍しています。

私たち人間は、一人では生きていけません。さまざまな個性を持つ人たちが、一人ひとり誰かの支えになることで、その一人ひとりがつながりあい、地域に活力が溢れてくるのではないのでしょうか。

「誰かのチカラになりたいー。」そう思う気持ちが行動となって現れれば、地域全体に「支えあい」の気持ち溢れるはずですよ。



中野市の現状

長野県の北部に位置する中野市。中央には千曲川が流れ、東方には志賀高原、西方には北信五岳を一望でき、「日本のふるさと」といえる原風景が広がります。

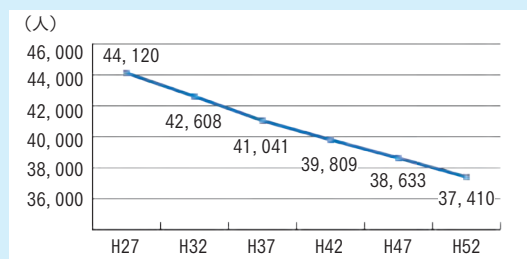
ただ、そんな自然豊かな本市も、総人口に目を向けると平成12年の4万7845人をピークに少子高齢化に伴う減少傾向にあり、人口問題に関する基本認識の共有を図るために策定した「中野市人口ビジョン※1」では、25年後の平成52(2040)年には3万7410人まで減少すると推計しています。

また、人口の減少に伴い、地域の「担い手の減少」や、「つながりの希薄化」が心配されており、社会状況の変化の中で、時代に合ったつながりの在り方を考えていく必要性が高まっています。

日々の暮らしの中で皆さんが意識していること

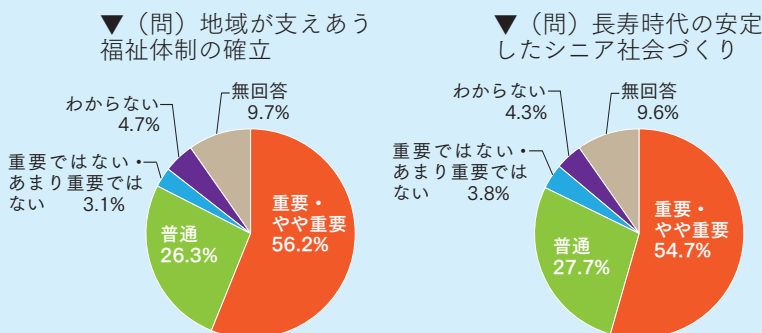
本年6月に、市民の方を対象に実施した「市民満足度調査※2」の結果をみると、健康・福祉に関する政策において、「長寿時代の安定したシニア社会づくり」と「地域が支え

中野市人口ビジョンにおける目標人口のベースとなる推計値 ※1



▲平成52(2040)年には現在よりも約7,000人少ない37,410人まで減少すると推計している

健康・福祉政策に期待する重要度(抜粋) ※2



アンケート調査結果など

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。



あう福祉体制の確立」に対して高い重要性を感じている一方、「高齢者や障がい者の社会参加の環境」などは、重要度に対して満足度が低いことが分かります。

また、「中野市地域福祉計画（平成26～30年度）」に係る意識調査※3において、地域福祉の重要性を多くの方が考えていることが分かります。

互いに支えあい協力していくために

各種アンケートの結果から分かるように、市民の皆さんが日常生活の中で考えている大切なことは、「地域住民同士が支えあい、協力して住みよい地域を作りたい」と思う気持ちです。

では、私たちが共に支えあい、協力していくために必要なことは、どんなことがあるでしょう。

今回の特集は、支えあいのまち―地域の問題とともに、地域を支え、さまざまな活動を行っている方を知りましょう。そこにはきつと、一人ひとりの行動から大きな支えあいが生まれてくる素晴らしいさと、各々が目指す「支えあいのスタイル」が見えてくるはずです。

あう福祉体制の確立」に対して高い重要性を感じている一方、「高齢者や障がい者の社会参加の環境」などは、重要度に対して満足度が低いことが分かります。

また、「中野市地域福祉計画（平成26～30年度）」に係る意識調査※3において、地域福祉の重要性を多くの方が考えていることが分かります。

互いに支えあい協力していくために

各種アンケートの結果から分かるように、市民の皆さんが日常生活の中で考えている大切なことは、「地域住民同士が支えあい、協力して住みよい地域を作りたい」と思う気持ちです。

では、私たちが共に支えあい、協力していくために必要なことは、どんなことがあるでしょう。

今回の特集は、支えあいのまち―地域の問題とともに、地域を支え、さまざまな活動を行っている方を知りましょう。そこにはきつと、一人ひとりの行動から大きな支えあいが生まれてくる素晴らしいさと、各々が目指す「支えあいのスタイル」が見えてくるはずです。

あう福祉体制の確立」に対して高い重要性を感じている一方、「高齢者や障がい者の社会参加の環境」などは、重要度に対して満足度が低いことが分かります。

また、「中野市地域福祉計画（平成26～30年度）」に係る意識調査※3において、地域福祉の重要性を多くの方が考えていることが分かります。

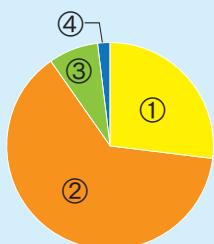
互いに支えあい協力していくために

各種アンケートの結果から分かるように、市民の皆さんが日常生活の中で考えている大切なことは、「地域住民同士が支えあい、協力して住みよい地域を作りたい」と思う気持ちです。

では、私たちが共に支えあい、協力していくために必要なことは、どんなことがあるでしょう。

今回の特集は、支えあいのまち―地域の問題とともに、地域を支え、さまざまな活動を行っている方を知りましょう。そこにはきつと、一人ひとりの行動から大きな支えあいが生まれてくる素晴らしいさと、各々が目指す「支えあいのスタイル」が見えてくるはずです。

地域生活についての考え方（抜粋）※3

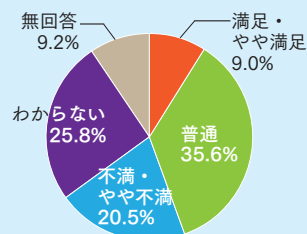


回答内容	(%)
① 自分（家族）でできることは自分でやることが望ましい（自主的）	27.1
② 地域住民が助けあい、協力して住みやすい地域を作ることが望ましい（共助・互助的）	63.2
③ 生活上の不安などの相談は行政等に解決を求めることが望ましい（公助的）	7.7
④ その他	1.9

▲▶自助・公助に比べ共助・互助的であることが望ましいと考える方が多い

健康・福祉政策に対する満足度（抜粋）※2

▼（問）障がい者が暮らしやすく社会参加しやすい環境が整っているか



▼（問）高齢者が生きがいを持って社会参加できる環境が整っているか

